

社会資源の有効活用

～食品ロスの削減を目指して～

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



埼玉県環境部資源循環推進課

社会資源の有効活用 目次

I 食品ロスを取り巻く状況

- 食品ロスとSDGs
- 食品ロスの現状
- 食料の有効活用に向けた活動

II 災害備蓄食料の有効活用

- 食料の有効活用に向けた課題
- 備蓄食料の特徴を活かした地域密着型の活用
- 提供事例

III 地産地消型食品ロス削減モデル

- モデルの概要
- モデルのイメージ

Ⅰ 食品ロスを取り巻く状況

食料ロスとSDGS

12 つくる責任
つかう責任



持続可能な消費と生産のパターンを確保する

ターゲット 12.3

2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食品廃棄物を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品の損失を減少させる

日本

深刻な子どもの貧困

子どもの貧困は、7人に1人

多量の廃棄物処理経費

市町村等のごみ処理費用 約2兆円

世界

深刻な飢えや栄養不良

飢えや栄養不良で苦しんでいる人 8億人

温室効果ガスの増加

1990年と比較して 50%増加



食料ロスの現状

我が国の食品ロスの現状

- 年間612万トン(平成29年度推計)≒国連世界食糧計画(WFP)による食糧援助量(約380万トン)の1.7倍
- 年間1人当たりの食品ロス量は48kg≒年間1人当たりの米の消費量(54kg)に相当

埼玉県の食品ロスの現状

- 県の食品ロス量は26.6万トンと推計
- 令和元年度に県が実施した調査では、余った野菜や家庭菜園で食べきれなかったと思われる野菜が多い
- 未開封、賞味期限前の食品も散見(レトルト食品等)



埼玉県調査

家庭から発生する食品ロスの傾向

- 手つかず食品は生鮮野菜が48.7% (神戸市 平成29年度調査結果より)
- 可燃ごみに占める手つかず食品の割合は5.6% (京都市 平成30年度調査結果より)

食料の有効活用に向けた活動

ひとり親家庭などの生活困窮者等、食料を必要としている方は多く、県内各地でフードパントリーや子ども食堂などの活動が活発に展開。

フードパントリー

県内で、ひとり親家庭や子育て中の生活困窮家庭を対象に食品を無料で配付する活動



子ども食堂

生活困窮家庭だけではなく、地域の子どもたちに食事を提供し、地域の人々をつなぐ活動



II 災害備蓄食料の有効活用

(R2.8～)

食料の有効活用に向けた課題

提供側

（事業者）

- ① 提供スキームが不明
- ② 提供できる時期が限定的
- ③ 廃棄コストがかかる

受領側

（フードパントリー・子ども食堂）

- ① 計画的な活用が困難
- ② 保管・輸送が困難

備蓄食料の特徴を活かした地域密着型の活用

災害備蓄食料の特徴

- ① 企業の業務継続に必要
- ② 賞味期限を迎えると更新
- ③ 保管・運搬が容易
- ④ 調理が簡単

提供側

- ① 県に情報提供だけで食品を提供可能
- ② 廃棄コスト削減
- ③ 企業価値向上 (SDGs)

受領側

- ① 計画的に活用可能
- ② 近くで受け取れる
- ③ 受け取るまで保管場所不要

計画的に地域密着型の活用が可能に！

提供事例

埼玉トヨペット様から、近隣のフードバンク埼玉様へ約4000点を御提供
翌日までにフードパントリーへ配布し、活用

災害備蓄食料を贈呈する埼玉トヨ
ペット関口裕一関連事業部長と
フードバンク埼玉の永田信雄理事



提供品の一例



Ⅲ 地産地消型食品ロス削減モデル (R1.7～)

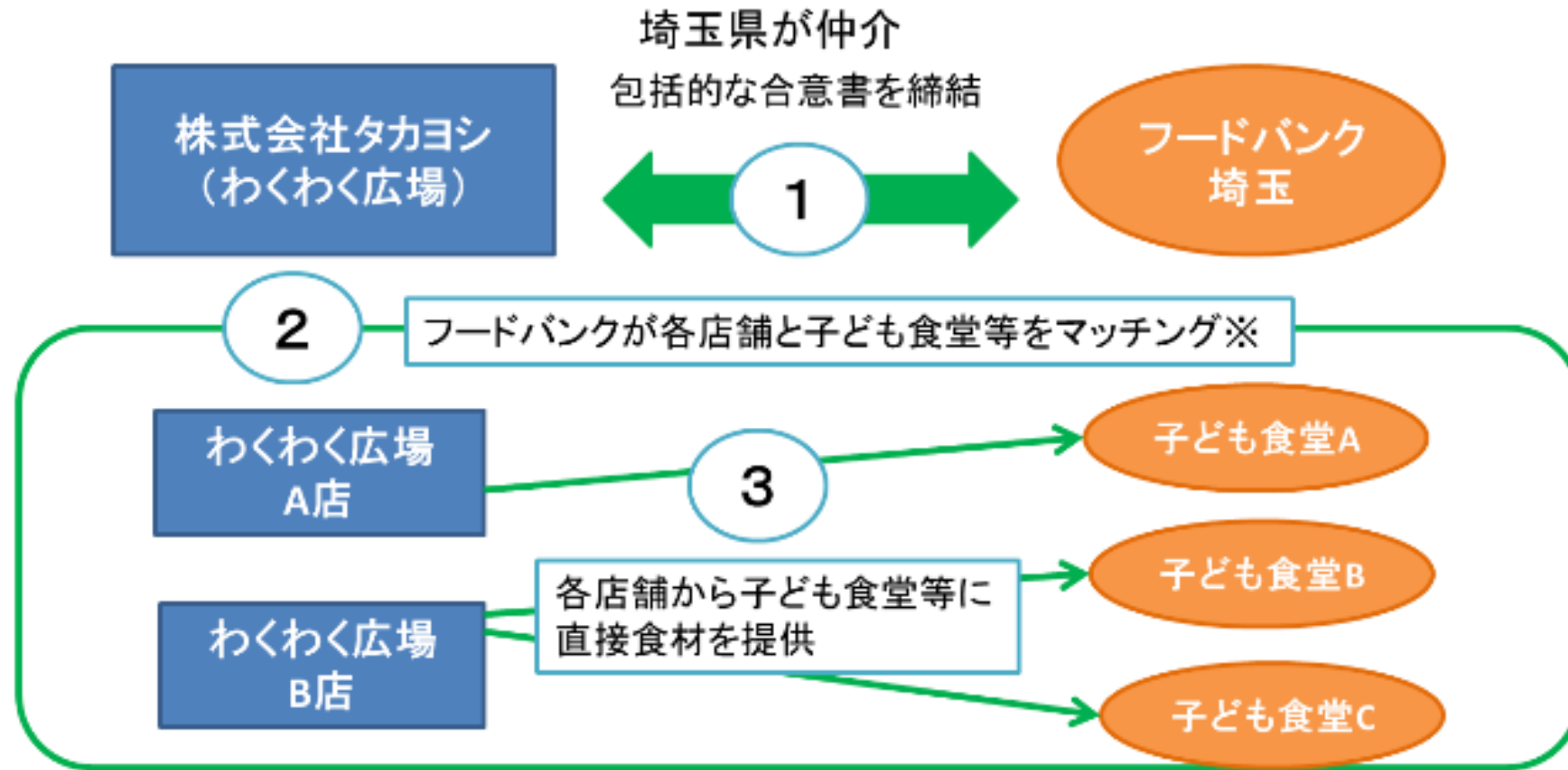
モデルの概要

事業者・フードバンク・子ども食堂をつなぎ、地域で発生する食品ロスを地域で活用する仕組みを構築。

野菜や果物などの生鮮食品の活用を可能に！

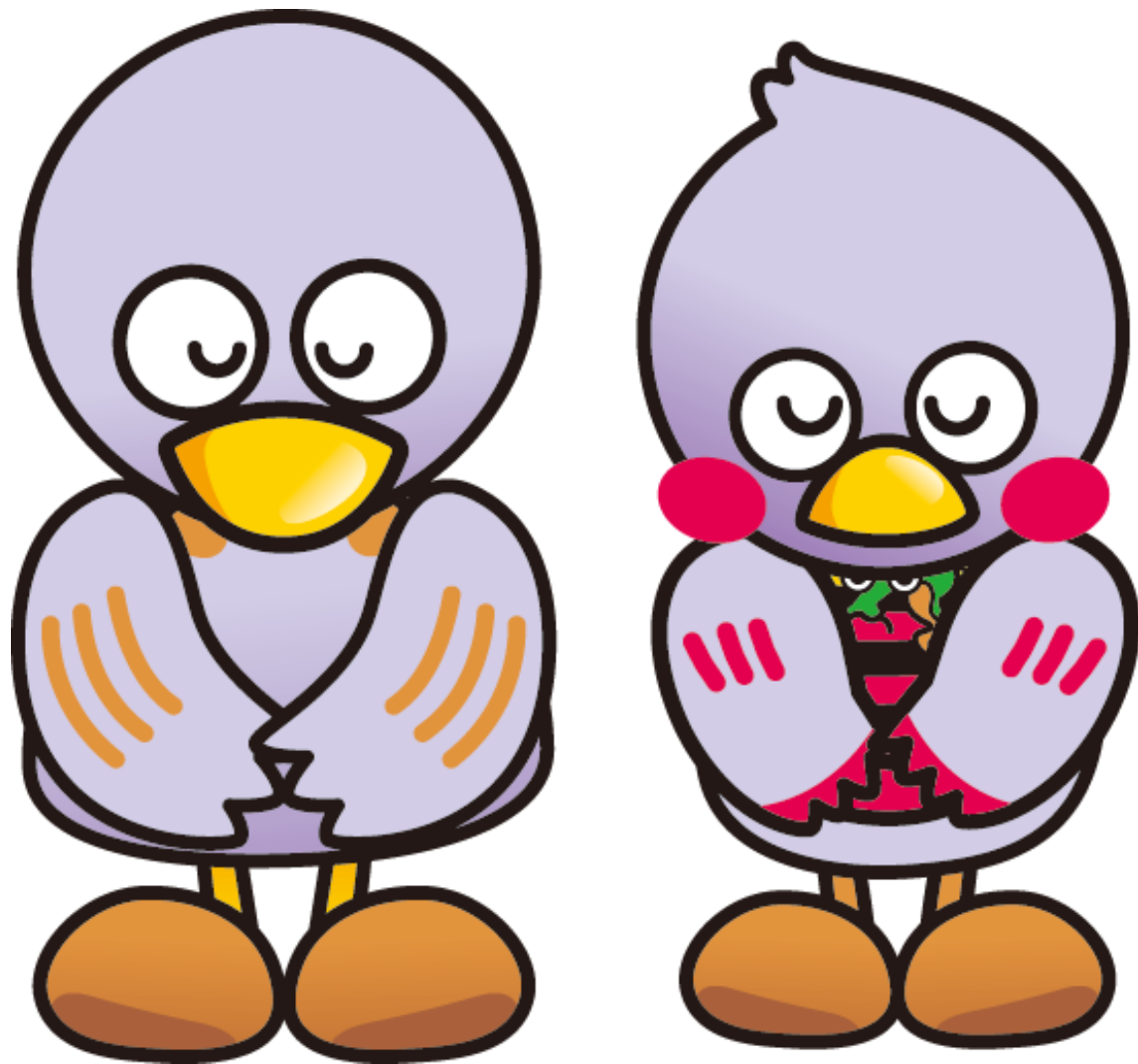


モデルのイメージ



※ルールを決めてルーティン化

だれが・どこで：A店　だれに：子ども食堂A　いつ：金曜日　どうやって：A店に取りに行く



ご静聴
ありがとうございました

extra

「食品ロス削減対策取組事例集」 のご紹介

事例集のご紹介



食品ロスの削減に取り組もうとする際の
参考となるよう、

- ・日常の買い物や調理の事例、
- ・環境への取組に積極的な事業者の事例
などを集めた**事例集**を作成

事例集のご紹介

目次	
はじめに ～SDGs達成に向けて～1	
目次3	
消費者編	
◆ 買い物編5	
◆ 保存編7	
◆ 調理編9	
事業者編	
◆ 大黒屋食堂11	
◆ おづつみ園 カフェはなあゆ13	
◆ 株式会社タカヨシ15	
◆ 株式会社島忠17	
◆ 株式会社そごう・西武 そごう大宮店19	
◆ 株式会社クリタエムデリカ21	
◆ NPO法人イエローハーツ23	
◆ あいおいニッセイ同和損害保険株式会社25	
◆ 株式会社埼玉りそな銀行朝霞支店27	
行政・団体編	
◆ 特定非営利活動法人フードバンク埼玉29	
◆ NPO法人フードバンクネット西埼玉31	
◆ NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク33	
◆ 一般社団法人埼玉県子ども食堂ネットワーク35	
◆ 加須市37	
彩の国エコぐるめ協力店について39	
おわりに39	

それぞれの取組が
SDGsのどの目標達成に
寄与するかわかりやすく
表記

事例集のご紹介



時短や節約につながる レシピの紹介も!

※ 女子栄養大学短期大学部監修

事例集のご紹介

設立年 2016年

NPO法人 イエローハーツ

活動年次報告書

SDGs/17 GOALS

NPO法人イエローハーツは、2016年に子ども食堂の開催からスタートし、今年で5年目に入りました。代表理事の田中一永が子育て中、地域の方にとってもお世話になったので、子育てが落ち着いた頃、「地域に何か貢献したい」という思いから活動をスタートさせました。

『子どもたちが楽しく食事できる場所を提供したい』と始まった子ども食堂は、回数を重ねるごとに参加者も増え、また、ボランティアとして一緒に盛り上げていきたいという仲間も増えています。

2017年からは、ひとり暮らし高齢へのフードバンクリーにも取り組んでいます。

こうした取組には、フードバンク、地元企業連合会、地元企業連合会、個人の方々など多数の御協力をいただいています。

事業紹介

「健やかな成長とおどやかな暮らしを守る」

子どもたちの健やかな成長を見守る為に、地域での親子を中心に様々な年代の地域住民が関われる「地域コミュニティ」をつくることで、子育てに際する不安や悩みを共有し、子ども達の食育や知育を促すことで、豊かな地域につながることを目指しています。

私たちの活動する茨城県水戸市は、野菜産地の為の環境に恵まれ、地産を過したくさんの野菜が収穫されています。地産から新鮮な野菜が身近にあり、近所の方との野菜のやり取りも地元の習慣です。

そんな産地の野菜を、多くの方に届けたいと思っています。

「規格外野菜」を美味しく 活かして食品ロスゼロに

食品ロス削減のために

「規格外野菜をビクルスにして販売」

規格外の野菜を加工して販売することで
廃棄される野菜を減らし
活動をしてくれる農家の支援につなげます。

子ども食堂運営の中で、近隣の農家からたくさん野菜を寄贈していただいています。時には料理しきれないほどいただき、子ども達に加工して頂くことも。そんな中、思っている以上に「規格外」として廃棄される野菜が多量に発生していました。

規格外の野菜を加工して販売することで、廃棄される野菜を減らし、当該団体の活動を支えてくれる農家の支援につなげることができ、私たちの事業がやりやすくなりました。

加工品を売にするが検討する中、地産に近くから伝わる漬物技術を使っているビクルス作りが注目されました。新鮮な野菜の規格外は短く、ビクルスに加工することで保存期間を長くすることができ、全国に向けて販売することができそうです。

商品化する際は、「新鮮な野菜が身近にない若い人に届けたい」との思いから、可愛らしさやワクワク感のある見た目を意識しました。企画しただけの商品化までいかず、より多くの方に受け入れられる野菜の味を楽しんでいただける商品になったと思います。

ビクルスにする野菜は、取組に賛同してくださる農家から購入しています。「規格外品は捨ててしまうのが惜しい」と思っている農家もある中、相手の農家からは規格外品の取組の一つとして認知されつつあるように感じています。取組に賛同してくださる農家からは、「次はこの野菜で作ってみたい」となど、積極的な提案を受けることもあります。

この取組を、食品ロスの削減、農家支援、当該団体の運営資金調達の三つよしの事業として、持続可能なものとしていきたいと思っています。

NPO法人 イエローハーツからのメッセージ

ビクルス作りについては、新商品が出るまで注文していただくリピーターや大量に購入していただく方、東北や関西などから注文していただく方もいて、広がりを感じています。将来的にはきちんと収益性のある事業にして、販路の拡大として提供したいとも考えています。今後も、農家から少しでも多くの規格外野菜を購入し、ビクルスに加工させて、地域の活性化にもつながっていきます。

22

24

地元の規格外野菜を 活用した取組の紹介も！

事例集のご紹介

NPO法人フードバンクネット西埼玉

食料ロス削減に貢献しています

みんなで在庫を確認してムダのない消費を！

NPO法人フードバンクネット西埼玉は、生活困窮者を支援するNPO法人サマリアの活動の中から、食料支援に特化した別法人としてスタートし、今年で5年が経ちました。

活動を始めた頃は、まだ「フードバンク」という活動そのものの認知度が低く、駅前で活動紹介のビラを配るなど、私たちの活動を知っていただくことから始めました。

当フードバンクは、スタート時から地域に密着した活動を行っています。スタッフやボランティアは所沢市内や周辺市町から集まっており、活動資金も市街や企業からの寄付金などで賄っています。地域に根差し、地域の方々と共に取り組むフードバンク活動を進めています。

活動紹介

私たちのフードバンク活動は、食べ物を選べるだけではなく、無償で譲り、また安全に食べられる食料を有効に活用する「フードバンク」の仕組みを利用して、地域の色々な人が色々な立場で活動に参加し、いつの間にか笑顔になっている、そんなフードバンク活動です。

優しきのプラットフォーム

地域の社会福祉協議会や行政窓口、子ども支援母会、高齢者の支援団体等へ、気持ちよく食料をお届けし、様々な活動を通じて必要とする人に届けます。

「もったいない」を「ありがとう」へ

食品ロスの削減に寄与し、また安全に食べられる食品を有効活用する仕組みづくりに取り組みます。

いつでも食べ物がもらえる場所があること、それは生きる権利を守ること

人恵支援として、無料な手続きや審査なしに小さなSDGを受け止める場所を地域に作り出す、「食べ物がほしい」という方へ、初回は無条件で食料を提供します。

食品ロス削減のために

在庫マッチングシステムの開発

昨年度、独立行政法人福祉政策機構(WAM)の助成金を活用し、在庫マッチングシステムを開発しました。当フードバンクの在庫状況をネット上に公開し、連携先の団体等は、オンラインショッピングのように希望する食品を選んで注文できるシステムです。

本システムの開発前は、希望にマッチングする時でないに、発注者は希望する食品の在庫状況を確認できませんでした。本システムの導入後は、発注にスタッフがない時でも在庫状況を把握して発注でき、発注者にとっても当フードバンクにとっても、負担の軽減につながっています。

地域のフードバンクの立ち上げ支援とネットワーク化

地域に密着したフードバンク活動を広げるため、地域のフードバンクの立ち上げを支援しています。これからフードバンク活動を始めようとしている団体から、フードバンクを立ち上げてほしい団体まで、各段階で必要な悩みを聞き取り、当フードバンクは、5年間の活動実績を踏まえ、各団体の悩みや困りに応じて相談を受けたり、企画を提案したりしています。

また、地域で活動するフードバンクをネットワーク化し、一度に大量に発注があった時の調整等も行っています。

NPO法人フードバンクネット西埼玉からのメッセージ

当フードバンクの活動は、地域の企業・個人など様々な方々の支えによって継続しています。食品をいただく、必要とするところへ届けるまでには、食品のチェックやデータの入力、発注を受けて発送準備をするボランティアスタッフの協力が欠かせません。また、食品を保管する倉庫も、関係団体の協力によって維持しています。

フードバンクという活動の認知度が向上し、食品の賞利用などが進んでいることは大変嬉しいことです。フードバンクの活動が各地で継続して実施されることで、食料を必要とするところへ、より早く、きめ細やかに食料を届けることができます。

フードバンクの活動が持続可能で安定した社会資源となるよう、ボランティアスタッフとしての参加や、段ボールやガムテープなどの送料資材の提供、使用していない店舗や家を倉庫として貸し出すなど、様々な形で活動に協力いただければ幸いです。

当フードバンクの活動が、地域の「食のセーフティネット」になることを願って今後も活動を続けていきます。

31

32

地域で活動する団体の紹介も！

事例集のご紹介



県ホームページで公開しています。
ぜひ一度ご覧ください！



県ホームページはこちらから